

2019年度 第3回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会 議 事 録

1. 開催日時 : 2020年2月20日(木) 19:00~20:45
2. 開催場所 : 町田市医師会館
3. 出席委員 : 川村益彦、五十子桂祐、山田潔、高橋克也、山崎優子、西原佳子、齋藤秀和、新甫孝子、星野和宏、川島政美、北場充、畑中猛、堀川史貴、及川裕美子、永見直明、内山良平、石戸谷蓮、小金栄太、向良昌、齋藤美和子、高橋由希子、古味斉
計22名(敬称略)
4. 欠席委員 : 無し
5. 市側出席者 : いきいき生活部 奥山孝
介護保険課 高田康宏、佐藤里恵
保険総務課 田村光平
高齢者福祉課 岡林得生、江成裕司、皆川麻美、国弘麻未、二串裕人
市民病院 飯草みすず、大谷由美、柳本輝美
東京消防庁 瀧澤秀行、鈴木翔平 (敬称略)
6. 医師会出席者 : 事務局 阿部斉人
医療と介護の連携センター 長谷川昌之 (敬称略)
7. 傍聴者 : 30名
8. 記 録 : 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵

《資料》

- | | |
|---------|--|
| 資料1 | 第13回多職種連携研修会について |
| 資料2 | 在宅医療・介護連携機能強化型の地域包括支援センター開設について |
| 資料3-1 | 南第1高齢者支援センター地域ケア推進会議報告書 |
| 資料3-2 | 南圏域合同地域ケア推進会議報告書 |
| 資料3-3 | 町田圏域 地域ケア会議 報告 |
| 資料3-4 | Let'sケア会議 第7号 |
| 資料4 | 町プロポータルサイトについて |
| 資料5 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2020~2022年度)(案) |
| 資料5-別紙1 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト工程表案(2020~2022年) |
| 資料5-別紙2 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの取り組み(~2019年度) |

《配布物》

- ・ 医療と介護の連携支援センター
- ・ 東京消防庁医療機関等向け資料「心肺蘇生を望まない傷病者への対応について」
- ・ 「シンボルマークステッカー作成しました」、シンボルマークステッカー

《開 会》

1 開会挨拶

【川村会長】仕事が終わって遅くに集まっていただき、ありがとうございます。皆さん、コロナ対策として、マスクをしています、私たち医師も報道の情報と大差ないぐらいの情報しかもっていません。あとで保健所からお話があるそうです。皆さんもまさに知りたいことだと思います。いずれにしろ、どこで罹るかわからない状態なのでしょうがないと思うが、皆さんには健康に気を付けて仕事をしていただきたい。今日もたくさん議題があり、興味深いこともあります。よろしく願いいたします。

2 報告事項

(1) 第13回多職種連携研修会について

【資料1】

【向委員】 研修部会会長の向氏より資料に沿って報告。

来年度は各団体のご意見をいただきながら、部会で議論していきたいと思っている。構成団体から部会への参加や派遣をよろしく願いいたします。

(2) 在宅医療・介護連携機能強化型の地域包括支援センター開設について【資料2-1】

【高齢者福祉課・国弘氏】 国弘氏より資料、別紙チラシに沿って報告された。

各高齢者支援センターが地域で行っている地域ケア会議等をより良いものにして、この町プロ協議会と有機的に連動できるように連携センターがその一助となるように市でも力を入れていきたいと考えている。しかし、これには皆様の協力が欠かせないので、これからもよろしく願いします。

【医療と介護の連携センター・長谷川氏】 開設の挨拶

市内13か所目になる支援センターの職員としてやらせていただく。配置職員の人数は5名となっている。高齢者支援センターをはじめ、各職能団体の皆様方にお力添えをいただきながら、医療と介護の連携を推進していけるように、職員一同頑張っていきたいので、よろしく願いします。

(3) 地域ケア会議について

【資料3-1~4】

【高齢者福祉課・皆川担当係長】

第2回の町プロ協議会以降、各支援センターで開催された地域ケア推進会議のうち、在宅医療介護に関係するものを掲載している。内容については各支援センターから報告する。

【南第1高齢者支援センター・水落氏】 水落氏より資料に沿って報告された。

資料3-1 来年度は救急時の意思決定をテーマに地域ケア会議を開催し、この問題に取り組んでいきたい。

資料3-2 南圏域では、今年度は「救急時の対応と日頃からできること」をシリーズ化して開催している。来年度は具体的な取り組みを検討していきたいと考えている。

【町田第1高齢者支援センター・神成氏】 神成氏より資料に沿って報告された。

資料3-3 町田市医師会館、デイサービス湧和、桜実会デイサービス玉川学園会場の3会場をテレビ会議システムでつないで実施した。グループワークの結果、あんしんキーホルダーについては緊急時に家族に速やかに連絡が取れるものなので、登録者数が増加することが活用につながると考え、医療機関や薬局等にチラシを掲示させていただくなど周知活動を拡大していく。通報に対する支援センターの対応力向上については、現在、各高齢者支援センターであんしんキーホルダーの情報を紙ベースで保管しており、夜間はセンターに来て情報を確認しなければならず、必ずタイムラグが発生してしまうという現状があるため、こちらについては市役所との協議が必要となっている。あんしんキーホルダーのチラシについては、医療機関や薬局に掲示していただき、裏面には12の支援センターの情報を掲載した。この掲示を圏域の関係機関にお願いし普及率の検証をしていく。

救急医療情報キットは15,000本すべてを配布しており、今後追加配布が可能かどうか確認するとともにボトルをクリアファイル等簡素化することで利用拡大できるのではないかという話があった。このほか、救急隊が持ち出しできるシステムが必要、そもそもおくすり手帳に緊急連絡先とケアマネを記載すれば可能ではないかという案が出た。

ケアマネサマリーや退院調整シート、Dr.inkについては今後の活用や改善点について利用するケアマネ、医療機関と支援センターで協働を深めていく。

おくすり手帳については広く市民に活用されており、受診状況や既往歴がわかり、医療介護関係者の連携ツールとしての活用が期待されるが、正しい使用方法については市民の啓蒙が必要といえる。多職種で共有したい内容の連携ツールとして活用するために、カバーを作成する。お薬手帳のカバーに、保険証、診断書、診察券、関係機関等の名刺を携帯する。また、おくすり手帳の正しい使用方法、あんしんキーホルダーの番号を記載する、緊急医療情報キットの内容を記載するなどツール間の連動を考える。町田圏域の今後の取り組みとしては参加者がこのようなカバーを作成いただいた。このケースに

は診察券、保険証、ケアマネの名刺が携帯できるようになっており、緊急連絡先も入れられる。ただ、この手帳を落とすと個人情報さらされてしまうことになるので緊急連絡先をあんしんキーホルダーの番号に掲載することも検討する。このおくすり手帳カバーをケア会議に参加していただいた先生や薬局、ケアマネジャー等に試験的に使用していただき、活用状況を確認するとともに問題点等を検証したいと考えている。三師会とも協力していただけるよう相談していく。

【鶴川第2高齢者支援センター・粕谷氏】 粕谷氏より資料に沿って報告された。

今回の地域ケア会議で使用した動画は鶴川第1、2高齢者支援センターにDVDがあるので各地域や団体で興味があれば、貸し出しを行う。今回の地域ケア会議を受けて各専門職が集まる個別会議は有効であることが再確認できた。とはいえ、各専門職が一堂に会するのはなかなかできないということで、ICTをうまく使いながら日頃から多職種が連携することが大事だという話になった。そこで、新しい機器やソフトウェアの活用を今後検討していこうとなった。今後の動きとして鶴川圏域でICT連携会議を定期的開催していく。

【五十子委員】 あとの議題のときに話をしたほうがいいのかもかもしれないが、9月にやった南のケア会議の報告が今というのは遅すぎると思う。また、鶴川の会議の事後アンケートの集計で回答者が66名で回答率64%と書いてあるがその下に書いてある人数と合わない。その少数派の意見はどうなったのか、教えてほしい。

【鶴川第2高齢者支援センター・粕谷氏】 今、気が付いたが集計が、間違えているかもしれない。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 先ほどの地域ケア会議の報告について、あとの協議事項でも触れさせていただくが、前回の協議会でも報告についてご意見をいただいたので検討した。地域ケア推進会議のうち、特に医療介護連携に関するものはポータルサイトに随時掲載して、だれでも見られるように4月から運用していきたいと考えている。現在、推進会議の周知、医療機関の方々の参加というところについては、より多くの医療機関の方に地域ケア推進会議に参加いただきたいと考えているので、各高齢者支援センターから先生方に連絡が届くように三師会の事務局と調整している。詳細については、また三師会にご報告できればと思う。

3 協議事項

(1) 町プロポータルサイトについて 【資料4】

【高齢者福祉課・二串氏】 ポータルサイトの協議の前に医療と介護の資源マップについてお礼を申し上げます。データ提供にご協力いただき、ありがとうございました。いただいたデータは資源マップに反映しているが、公開はまだ先となっているので閲覧できるまでお待ちください。

【株式会社スズケン・西室田氏】 西室田氏のデモンストレーションにより試作版を見る。

ドメインは machidapj.com まだ完成していないのでアクセス制限を行って、現在は非公開。PC、タブレット、スマートフォンいずれの端末でも閲覧できる。町プロに参加している16団体のリンク集、地域ケア会議の報告書や町プロ協議会の議事録等、直近に掲載された情報が表示できるようになっている。町プロを紹介する「町プロとは」では、町プロの所属団体の紹介、会長挨拶、町プロ協議会のページでは、協議会の紹介、多職種連携研修会のページ、医療と介護の資源マップのページでは各施設の情報を掲載する。マップは各所属団体にアイコンをつけて、こちらの説明と使い方を載せている。プロジェクトページに Dr.Link やケアマネサマリー、町田市退院調整シート、シンボルマーク、救急医療情報キット等、これまでの取り組みが整理されて載っている。地域ケア会議のページでは2020年4月以降開催されるものの報告書を掲載予定。今現在、4月1日の一般公開を目指して作成を行っている。ご協力をお願いいたします。

【五十子委員】 詳しい内容のポータルサイトの作成、ありがとうございます。関わっている人はすごく良くなったのを実感できるが、新しく医師会の会員になった先生方がこのサイトを見に行かないとわからないのは、今後どのように考えているか。

【高齢者福祉課・二串氏】 広報活動に関しては、きちんと周知できる形で、まずは公開して、皆さんの意見を聞きながらより良いものにしながら広報活動を広げていきたいと考えている。いろいろな方法、手段を使いながらケアマネ連絡会や各連絡会に通知を送らせていただきながら、広報活動につなげて

いきたいと考えている。今日参加している団体には、4月1日には見えるような形にしたい。地域ケア会議に関しては報告書が上がり次第、掲載していく予定である。

【山崎委員】 わかりやすいページで感動した。質問ですが、地域ケア会議の報告は有用だと思うが、開催の案内もこちらに入るのか。自分たちの地域ケア会議で訪問看護やリハビリ部門や参加したい職種がいたときに案内していただけるのか。

【高齢者福祉課・二串氏】 地域ケア会議の開催に関しては、各センターが個別に呼ぶところを選定しながら、テーマによって来ていただきたい方も変わってくるので、高齢者支援センターから各団体に通知して、相談させていただきたい。サイトに開催通知を掲載する予定は今のところない。

【五十子委員】 地域ケア会議は支援センターが来てもらいたい人に参加してもらおうのか。行きたい人は行けないのか。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 地域ケア会議はテーマや内容に応じて、適切な職種や課題解決に必要な情報をお持ちの方をお呼びするような形になっている。テーマによってお声がけする職種、団体が異なる。町プロポータルサイトはどなたでも見られることになるので、どなたでも来ていただけるのであれば掲載も可能だと思うが、地域ケア会議については基本的に自由参加ということはないので、ポータルサイトにへの掲載予定はない。三師会については支援センターの方で幅広く医師の先生方に来ていただきたい場合は通知を事務局にお送りする。そこから会員の先生方に連絡がいくことになる。その他の連絡会の皆様方については個別に支援センターから連絡するという流れを考えている。

【向委員】 繰り返しになるが、支援センターは内容によって参加者を考えながらやっているので来年度以降も参加者は支援センターで検討して、来てほしい団体に声をかけていく形になると思う。何らかの形で情報を得られ、行きたいという場合は各センターに相談していただきたい。

【山田委員】 地域ケア会議の開催の通知のことだが、三師会の事務局にお知らせがあるということだが、高齢者支援センターによってもだが歯科医師会の事務局に送られてこないで、直接近隣の歯科にだけお知らせがきて、会に届いていないことがあった。高齢者支援センターで統一した方向でやっていただきたい。私から歯科医師会の事務局に連絡をしないといけないとか、歯科医師会の理事の先生達ですら知らなかったということがあるので、多くの人に来ていただきたいならその部分を徹底してほしい。それから以前から提案させていただいているが、開催日程を早めに知らせてほしい。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 ご意見いただきました件については、先ほどご説明した通り、今までばらばらに高齢者支援センターから送付していたものは取りまとめて事務局から一括してお知らせできるように調整する。開催の通知の時期に関しては、現在は開催の2週間前に市役所でわかるようになってきているが、医療介護連携に関するものはもっと早めに通知していけるように準備を進めていきたい。

【永見委員】 参加したい人は連絡をということだったが、何もないところからはどんなのがあるのかわからないので連絡のしようもないと思う。主な職種を書いた案内があって、われわれも行ってみたいものは連絡するという方法が取れないかと思った。やること自体は広報してもいいのではないか。

【向委員】 永見さんの意見はすごくいいと思う。支援センターと市とでまた相談してからとさせていただきたい。

【永見委員】 対象者が専門職と書いてあるが、どなたでも閲覧できるということで市民の方も見られるのかと思った。町プロの広報として市民の方にも知っていただける良い機会なので、ポータルサイトで協議会にはこのような連絡会が参加し、各連絡会がどんなものかは見られるようにしてはいかがか。各団体の説明があると、私自身も他の連絡会がどういうものなのかわかりやすく、市民の方にもこの連絡会はこういう役割を持っているということがわかるようになるのではないか。

【高齢者福祉課・二串氏】 今のご意見はとても良いご意見だと思うので、どのような形でできるか検討させていただいて、次回の協議会で報告させていただきたい。

【五十子委員】 ということは次回の協議会までこのポータルサイトはオープンしないのか。

【高橋(由)委員】 4月にオープンしたいので、ここでいただいたご意見を検討させてもらおう。随時更新なのであとからつけても構わないが、検討させていただきたい。リアルタイムでは所属人数も変わるので、更新なども含めて検討させていただく。

(2) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2020～2022年度)(案)について

【資料5】

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 皆川氏より資料に沿って説明された。

今回ご提案する内容は皆様のご意見をいただいて修正し、次回の協議会に提出したいと考えている。3の(1)①では、現在試行の結果を踏まえて部会の報告書としてまとめている。報告書の内容は次回の協議会でお示ししたい。②では、より効果的な活用に向けて病院や救急隊の方のご意見を伺いながら内容の見直しを行い、普及を進めていきたい。③では、2020年度から運用を開始したい。(2)②では、引き続き活用を進めていく。③では地域ケア会議の企画運営支援や専門職からの相談対応、課題抽出調整等を行うことで在宅医療介護連携推進事業の体制強化を図っていく。④では、部会を設けて、ケアマネサマリーを作成、運用を行ってきた。今後は外来受診時における活用を推進する。また退院時の情報共有については退院調整シートの試行を行っている。今年度はアンケートを行った。次年度は退院調整シートの作成を進める。⑤では発信の取り組みとしてポータルサイトの立ち上げを行う。(3)の①②では、多職種連携研修会は部会をもって検討している。アンケートの集計やいただいた意見を参考にし、医療職、介護職双方にとって有益な研修となるように企画していきたい。(4)では市民向け講座を実施するが、内容は多職種連携研修部会で検討する。プロジェクトの広報はシンボルマークの活用、プロジェクトの周知を行う。これらは工程表のスケジュールに沿って進めていきたい。

【川島委員】 工程表の最後の方で私どもが関わっているのは資源のマップの作成だと思うが、更新はだれがするのか。日々やめてしまう訪問介護事業所があるかと思えば、新たに参入する訪問介護事業所もあるが、だれがやるのか。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 部会で検討したところ、年1回、前回と同様の調査をして更新をしていく予定である。

【川島委員】 一年に一度しか更新する機会がないと考えていいのか。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 現在のところ、そのように考えている。何月何日時点ということで記載させていただく。

【五十子委員】 救急医療情報キットの内容の見直しはいつごろするのか、いつ議題に出るのか。

【高橋(由)委員】 検討中だが、できれば部会の形式で検討していきたいと考えている。詳細は、次回に提案させていただきたい。

【五十子委員】 町プロは、栄山先生が在宅医療の需要が増えるのに対して在宅医が少ないから、今クリニックでやっておられる先生方に在宅医療に協力していただくという観点から行政と話し合いながら立ち上がったと思う。これが、どこの部分にあたるのか、僕が見てもよくわからない。多職種連携に必要な技能や知識の習得ということになってくるのだろうと思うが、見ると国の制度改正と社会状況の変化に迅速に対応すると書いてある。迅速に対応すると書いてあるが、多職種連携の研修会が年に1回、市民向けの啓発講座が年に1回である。どこが迅速なのかスピード感にギャップを感じる。地域ケア会議に行きたいと思っても、来ちゃだめだよという職種もいるわけだよね。なおさらこういうのを使うしかならないのにどんどん在宅医療の需要は増えると言っているスピード感とギャップを感じる。それはここにいる訪問看護の山崎さんたちは感じているのではないか。

【山崎委員】 私はいろいろな会に出席させていただいて比較的新しい情報が入るが、新しく管理者が入ってきて、このポータルサイトを見ると町田市全体の動きが見えるよと、勧められるようなものになるといいと思う。多職種連携研修会部会に2年間参加させてもらったが、働いているので開催回数が増えるのは難しい。

【五十子委員】 例えば、クリニックの先生が今日からオープンしましたというとき、在宅医療をどんどんやっっていこうと思って、多職種連携を進めていこうと思って連携の研修会が終わったばかりだったら、ほぼほぼ1年後になる。地域ケア会議も一本釣りしかされないのであれば在宅医療はできるけど、多職種連携が進まないことになるのではないかと思う。そうするとここに書いてあるスピード感とギャップが出るのではないかと思うが、行政はどう考えているのか。

【高橋(由)委員】 地域ケア会議は三師会の皆様には参加していただけるように随時発信していく。すべての団体にまんべんなくというのはテーマによっては誤解させることもあるので選びたいと思っている。地域ケア会議の他に学ぶ場もあるし、各専門職の中でそれぞれの会で勉強会もあるし、さらに言えば新しく機能強化型を作るのでそこが発信して勉強会なども今後作っていかうと思っているので、いろいろなチャンネルもあるので、それを見えるようにしていくのがポータルサイトでもあると思うのでいろいろ活用していただきたい。

【川村会長】 今話を聞いて、情報を基本的には出す、オープンにするのはいい。興味がある人は見ると、ない人は見ない、こちらが選択をするのではなく見る人に選択してもらう。もし参加したい人がいたら連絡をとって、今回は来てください、とやればいい。出すほうから絞ってしまうとなかなか広がらないと思う。医師会もそうだけど会員専用ページがあって、クローズなところとオープンで見られるところと分けていけばいい。載っていれば他のところはこういうものをやっているのだとわかるのでできるだけ出したほうが良いと思った。

【高橋(由)委員】 できるだけオープンにするように高齢者支援センターと相談したい。

【議長】 救急医療情報キットについては増産の予定の検討があるということですか。それから、今いろいろな部会が設立されていると思うが、どんな部会があるか、委員の皆様に入っていたかというあたりはどのように検討されているか。

【高橋(由)委員】 研修部会は継続、シンボルマーク部会は今後どうするか検討、新しいテーマとして救急医療情報キットをやりたいとは思っているが細かい設計はまだしていないので、できたら相談する。

【高齢者福祉課・皆川担当係長】 明日以降、皆様に文書お送りするので、実施方針についてご意見があれば、書いて送ってほしい。

【五十子委員】 以前、協議会を年に4回から3回に減らしたが、次の3年度も協議会や研修会の回数は変わらないのか。

【高橋(由)委員】 部会が活性化してきたので、意思決定としては3回でも良いと思うがご意見があればアンケートなどでいただければと思う。研修会もたくさんあるに越したことはないと思うが、部会の方の労力を考えると、これ以上増やすのは今のところ難しいと思う。

4 心肺蘇生を望まない傷病者への対応について

【リーフレット「心肺蘇生を望まない傷病者への対応について」】

【東京都消防庁 鈴木氏】 東京都消防庁 鈴木氏よりリーフレットに沿って説明された。

【高橋(克)委員】 人生会議というのは傷病者だけでなく元気なうちでも考えられている方がいると思うが、最終段階の方以外はこの取り決めの対象者には入っていないということか。

【東京都消防庁 鈴木氏】 そのような解釈になる。

【五十子委員】 町田市内では救急医療情報キットがあるがその中に本人が延命を望みませんというチェック項目のようなものがあると適用になるのか。

【東京都消防庁 鈴木氏】 なる。必ずかかりつけ医の先生に連絡をするきっかけとして、適用になるというイメージをもっていたらと思う。

【五十子委員】 12月16日からまだ1ヶ月くらいだと思うが市内で何件くらいあったのか。また、町田市で何件くらいあったのかわかれば教えてほしい。

【東京都消防庁 鈴木氏】 詳細については現在集計中である。この事例研究の中で調査をして、そのときには2018年に1か月で11件、運用を開始してからも同じように月10件くらい発生している。内容について詳細は言えないが、かかりつけ医の先生を待てる45分、家族に引き継げる12時間は混乱なく、適切に運用されているようだ。2018年の調査はホームページ上に答申書としてまとめられている。たとえば、その11件がどういう事案だったのか、どういう結果だったのかということはある程度載っている。

【高橋(克)委員】 最終段階による傷病者の対象はかかりつけ医に事前に言っている、あるいは、かかりつけ医がそう判断したから、たとえば元気で交通事故にあつて、かかりつけ医はいない場合は対象にならないのか。

- 【東京都消防庁 瀧澤氏】 ACPを行われている方が前提になるので、人生の最終段階の病気があって最後をどう迎えるのか、話し合われている方が対象になる。たとえば浴槽で発見された場合、事故などの場合は対象にならない。
- 【高橋(克)委員】 かかりつけ医がいて割と若くても人生会議をやっていた場合は。
- 【東京都消防庁 瀧澤氏】 どこまでご本人の意思があるのか紙だけで判断しないで先生にどこまでお話しされているかを確認させていただく。
- 【高橋(克)委員】 そうすると必ずしも末期というケースに限らないのか。
- 【東京都消防庁 瀧澤氏】 おそらく末期になるかと。それ以外はない。人生の最終段階の定義があるので、それを越えることをわれわれはしない。
- 【川村会長】 最終段階にあるのが前提なので、元気な人は最終段階ではないから入らないと思う。
- 【東京都消防庁 鈴木氏】 厚労省の ACP のガイドラインの文言をお借りすると、人生の最終段階、当然いろいろな場面があるが、具体例としてはがんの末期のように予後が数日から数か月と予測される場合、慢性疾患の急性増悪を繰り返し予後不良に陥る場合、脳血管疾患の後遺症や老衰など数か月から数年にかけて死に至る場合の例示になる。
- 【議長】 非常に高齢であれば老衰ということで、老衰であれば最終段階に近いという判断でいいのか。
- 【東京都消防庁 鈴木氏】 そのとおりです。
- 【議長】 ACP と一緒に進めていく取り組みだと思うが、詳しい説明をいただいて皆さんの理解が深められたと思う。
- 【高齢者福祉課・国弘氏】 事前に2点ほど質問をいただいていたので答えていただければと思う。1点目は本人の意思を伝える家族等に医療職やケアマネジャーも含まれるかどうかケアマネジャーから質問があった。2点目は ACP に基づく本人の意思表示は決まった要件がないということだったが、例えば訪問看護の記録でもよいのか訪問看護事業所から質問があったのでお答えいただきたい。
- 【東京都消防庁 鈴木氏】 一つ目、あくまで救急隊からかかりつけ医に連絡して、傷病者の意思かどうかを確認するので、そのきっかけとなるので特に相手であるとか職種であるとか方法は限定していない。ですので、介護事業者やケアマネジャーも含まれることとなる。二つ目の書面、記録についても今お答えしたものと同様にかかりつけ医に連絡するので、そのきっかけとして少なくとも本人が心肺停止時に心肺蘇生を望まないということがわかることと、かかりつけ医の先生の連絡先がわかれば、この2つがあればどのような様式でも構わないと考えている。この資料は消防庁のホームページにも掲載されているので、ご覧ください。

5 その他

(1) 各協議会委員の報告・意見交換など

① 新型コロナに対する町田市の対応について

【保健所 保険総務課・田村担当課長】 市の対応状況を説明する。時系列を追って説明させていただく。まず初めに、市の動きとしては、1月24日に所内の危機管理ガイドラインに沿って、対策会議を保健所長をトップに開催した。翌日から春節で休みが始まる時期で、ちょうど国内では2例目が発生した。それに伴い、医師会にも通知を送り、その後、1月28日に国の方で指定感染症2類相当に閣議決定され、その日に市としては新型インフルエンザ等対策会議第1回を開催した。新型インフルエンザ等への対策行動計画に基づき、保健所長をトップに市内の関係部長を集めた会議を開催した。市としてホームページにコロナウイルスに関するページを作って情報周知を始めた。2月1日に国で指定感染症に指定され患者数が増えてきたので、都と連携して2月7日に帰国者接触者電話相談センターを町田市含めて都内全域で一斉に立ち上げている。平日の9時から5時まで、市の保健所内に相談センターという形で2名の相談員体制で電話相談を受け付ける。042-724-4238に電話をしていただくと帰国者接触者の電話センターで症状等を聞いて関係する人には保健所が調整をして、疑わしいものは検査にもっていく、という流れになっている。土日休日夜間は都庁に合同設置で電話相談を受付けている。03-5320-4592にかけていただく流れになっている。市のホームページにも情報

を載せているので見てほしい。患者数が増加する中で、2月18日に感染症の要項等で当初の計画とコロナの位置づけが違っていることがわかったので、町田市危機事態対策本部を立ち上げ、トップが市長となり、設置場所が対策本部ということで防災課が主体になるが、関係部署の部長が集まる会議を開催しているという状況になっている。電話相談は先週の段階ではまだ一日数件という状況だったが、この週末に相模原中央病院で患者が出たため、今週に入って件数は増えている状況である。

②シンボルマークステッカーについて

【小金委員】シンボルマークステッカーが出来上がったので、委員の皆様には案内チラシとともにステッカーを配布させていただいた。4つのシールになっている。今後、各団体の事務局、町プロ委員の事業所へ送付するので各会員の皆様に配布していただきたい。本日、団体分のステッカーを持ち帰れるようでしたら高齢者福祉課の皆川さん、国弘さん、二串さんに申し出てください。

③その他

【五十子委員】先ほど保健所からも話があったが、コロナウイルスの件で、今日の協議会はこれだけの人数が集まるので開催されるのかどうかと思いながら、ご参加いただいたのかと思う。やるならちゃんとやりますよという発信をしなければならなかったと思った。医師会として行政と話し合っただけだと思った。今後こういうことがあれば、保健所のお力も借りながら高齢者福祉課と相談して発信する対策づくりをしていきたい。

【奥山部長】私事ですが、3月末で定年になりますので一言ご挨拶申し上げます。本日の資料の20ページにも、町プロの今までの歴史が書いてありますが、6年くらい前に栄山先生から連絡をもらって柏プロジェクトのようなものを町田でできないかということから、この活動が始まった。すぐ発足して当時から川村先生にはお世話になっている。市役所のメンバーでいうと、介護保険課の高田が当時いたくらいで、全員変わっている。当時、課長として赴任きたばかりで、医療と介護の連携というのはどういうことかわからなかった。私としては、杉並の巨大な医療法人を見た際に、病院や特養、老健などあらゆるものが一つの場所に揃っている、これが地域包括ケアなのかと漠然と感じていた。この町プロが町田市における医療と介護の連携の中心になって行くように、また、私個人としては、医療法人が何かしらの形で町田市内の医療と介護の連携に関わってくれないかと思っていた。そんな思いもあって、4月に医療と介護の連携支援センターができる。私としては、町田市の地域包括ケアは一旦、形としては完成であり、この地域で地域包括ケアをうまく組み立てられたかと思う。他市には見られないことだと思う。一つ残念だと思ったのは私が町田市民ではないことで、そこは失敗したなと本当に思った。これからも町プロは続いていきますし、この場で話されたことが現場で活かされると思う。

いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

(2) 次回の協議会の開催日程

2020年5月で調整中である。日程が確定したら委員にお知らせする。

閉会挨拶

【齋藤副会長】今年度の協議会も今日で最後です。皆さんの力があって一つ一つ形になっている。こんな形になるとは奥山部長も想定していなかったと思う。今後、人が足りない中でこれから福祉ってどうなるのだろう、医療もそうだろうがどうやって支えていくのか、それも町プロで考えていく。在宅医療の推進、支える人がいない状況を何とか打破していかなければいけないと思う。次年度も皆さんのお力をお借りしたい。

以上の議案審議、協議を行い、2019年度第3回の協議会を閉会した。

以上